

事後評価シート

【評価年月】 平成15年4月
 【主管課・室】 環境安全課
 環境リスク評価室
 【評価責任者】 環境安全課長 安達一彦
 環境リスク評価室長 三宅智

施策名、施策の概要及び予算額

施策名	- 7 - (1)環境リスクの評価
施策の概要	化学物質による人の健康や生態系に対する環境リスクを体系的に評価するとともに、そのための基礎データを収集する。
予算額	2,443,382千円（14年度予算）

目標・指標、及び目標の達成状況

目標	化学物質による環境汚染の実態把握や内分泌かく乱作用が疑われている化学物質についての有害性評価等を行い、体系的な環境リスク評価を推進する。
達成状況	<p>有害性の高い化学物質審査規制法・化学物質排出把握管理促進法対象物質の環境残留状況の把握等に資するデータに関しては必要性が高い115物質について調査を行うとともに、前年度の調査物質について解析し公表した。</p> <p>SPEED'98でリストアップされた内分泌かく乱作用を有すると疑われる化学物質65物質のうち、優先して環境リスク評価に取り組む物質として新たに24(このうち文献調査:16)物質を選定し評価に着手した。(この他に平成13年度からの継続:8物質)また、国際的な連携として内分泌かく乱物質に関する国際シンポジウムを開催した。環境リスク評価については、化学物質排出把握管理促進法対象物質等のうち、現在までに100物質について基礎情報を収集し、環境リスク初期評価のための作業を推進した。</p>

下位目標1	有害性の高い化学物質の環境残留状況の把握及び環境リスクの評価・管理に資するため、環境モニタリング等を計画的に進める。				
指標	H12年度	H13年度	H14年度	目標値	H - 年度
調査対象媒体別物質数	174	153	115		-
達成状況	有害性の高い化学物質である化学物質審査規制法及び化学物質排出把握管理促進法対象物質等の環境残留状況の把握及び環境リスクの評価管理に資するデータの取得のため、平成14年度は、115物質(媒体別延べ数)について環境				

	汚染実態調査を実施し、また平成13年度に実施した調査結果を調査物質毎に解析し、公表した。
--	--

下位目標2	「環境ホルモン戦略計画'98(SPEED'98)」に基づき、45物質以上について、平成16年度までに内分泌かく乱作用についての有害性評価を行うとともに、OECDの試験法の開発に協力する。				
指 標	H12年度	H13年度	H14年度	目標値	H16年度
SPEED'98の評価対象物質のうち、有害性評価に着手した物質数	12物質	8物質	24物質	(終了数)	45物質以上
達成状況	<p>平成14年度は、SPEED'98でリストアップされた内分泌かく乱作用を有すると疑われる化学物質65物質のうち、優先して環境リスク評価に取り組む物質として新たに24(このうち文献調査:16)物質を選定し評価に着手した。(この他に平成13年度からの継続:8物質)</p> <p>魚類、鳥類、両生類についてのスクリーニング・試験法の開発を進めるとともに、無脊椎動物についても取組を開始した。</p> <p>またOECDへの協力の一環として、魚類試験法の多施設間試験(Ring Test)に日本がリードする形で参加を開始した他、国際的な情報共有化の取組として、これまでに得られた成果についてOECDに結果を提供した。</p> <p>水、底質、大気及び野生生物における対象物質の濃度の実態把握を継続して実施した。</p> <p>環境中での分解や生態系での循環を考慮した水環境挙動モデルについてノニルフェノールに引き続き4-オクチルフェノールについて作成するとともにモデルの更なる検証を行った。</p> <p>国際的な連携として日英・日韓共同研究を進めるとともに、広島市において第5回内分泌かく乱化学物質に関する国際シンポジウムを開催した。</p>				

下位目標3	PRTR対象物質などのうち、平成13年度から16年度までに220物質を目標として基礎情報を収集し、環境リスク評価を進める。				
指 標	H12年度	H13年度	H14年度	目標値	H16年度
情報収集対象物質数	-	50物質	100物質		220物質
	平成14年度には、健康リスク及び生態リスクの両面にわたり13年度までに実施				

達成状況	<p>した環境リスク初期評価結果を取りまとめ、「化学物質の環境リスク評価第2巻」として公表しており、引き続き新たな物質を対象とする環境リスク初期評価のための作業を進めている。14年度には新たに50物質について有害性に関する基礎情報を進め、現在までに100物質の情報が得られている。</p>
------	--

評価、及び今後の課題

評価	<p>【必要性】(公益性、官民の役割分担等)</p> <p>化学物質による環境汚染の実態把握、内分泌かく乱作用が疑われている化学物質についての有害性評価及び化学物質の環境リスクの評価を行うことを目的としており、化学物質による国民の健康や生態系に対する影響を防止する観点から、必要不可欠なものであり、公益性も高く、環境省として取り組むべき課題である。</p> <p>【効率性】(効果とコストとの関係に関する分析等)</p> <p>関係部局と緊密な連携を図りながら、物質選定等の作業を進めるとともに、内外の知見を最大限活用して情報収集等を行っている。</p> <p>【有効性】(達成された効果等)</p> <p>【目標に対する総合的な評価】</p> <p>化学物質による環境汚染の実態調査の実施、内分泌かく乱物質作用についての有害性評価や環境リスク初期評価を計画的に進めており着実に成果をあげている。また、内分泌かく乱物質のスクリーニング・試験法の開発においては、魚類、鳥類、両生類について、一定の成果をあげ、新規に着手した無脊椎動物についても新たな指標(エンドポイント)を発見するなど大きな成果をあげた。</p> <p>【下位目標1】</p> <p>平成14年度は、115物質(媒体別延べ数)について調査を実施するとともに、平成13年度に実施した調査結果を調査物質毎に、解析することにより、これら化学物質の環境リスクの評価・管理に必要な環境中の汚染実態を着実に把握してきている。</p> <p>【下位目標2】</p> <p>内分泌かく乱物質問題については、新たに24物質の有害性評価に着手し、既に選定された物質の有害性評価と合わせ、着実な成果をあげた。スクリーニング・試験法の開発においては、魚類、鳥類、両生類について一定の成果をあげ、新規に着手した無脊椎動物についても新たな指標(エンドポイント)を発見するなど大きな成果をあげた。国際的な連携としては、引き続き日英共同研究、日韓</p>
----	---

	<p>共同研究を進める他、OECDの魚類試験法標準化のための国際的検証試験の取りまとめを環境省が行うなど、大きな貢献をした。また、世界最大規模の国際シンポジウムを広島で開催し、内外から高い評価を得た。</p> <p>【下位目標3】</p> <p>平成14年度には引き続き実施した環境リスク初期評価等の結果を取りまとめ公表し、また16年度までの目標を前提として現時点で優先的に評価すべき物質を選定して評価を進めており、着実に成果をあげている。環境リスク評価の成果については、環境リスク管理に向けた重要な科学的知見として、環境基準の検討や更なる評価の計画などに活用されている。</p>
今後の課題	<p>(下位目標1)</p> <p>環境汚染物質の調査及び調査結果に基づく解析を行うことにより、これら化学物質の環境リスク評価・管理に資するため、環境中の化学物質の分析法開発及び精度管理を強化していく必要がある。</p> <p>(下位目標2)</p> <p>現在進めている環境リスク評価等の継続及びSPEED'98でリストアップされた65物質のうち、未評価の物質の評価の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニング・試験法開発については、魚類、鳥類、両生類、無脊椎動物について引き続き推進。 ・内分泌攪乱作用を有すると考えられる物質の環境挙動モデルの作成。 ・これまでに得られた知見を踏まえたSPEED'98の改定。 <p>(下位目標3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き環境リスク初期評価を着実に推進する必要がある。また、PRTRデータ活用環境リスク評価支援システムを通じて、PRTRデータを環境リスク評価にさらに活用する必要がある。 ・生態系の保全の観点からは、生態リスク評価の対象生物を拡大するとともに、実環境中の生態リスクを把握する手法を検討する必要がある。 ・環境リスク評価の結果を、国民に対してわかりやすい形で提示する必要がある。

政策への反映の方向性

事業の改善・見直し	<p>理由の説明(新規、<u>拡充</u>、縮小、廃止等)</p> <p>環境汚染実態調査については、化学物質審査規制法指定化学物質の急速な増加に対応するとともに、環境リスク評価については、新たな評価手法の導入を図りつつ推進する必要がある。</p>
現行のまま継続	<p>理由の説明</p>

【別紙】

事務事業シート

施策名	- 7 - (1) 環境リスクの評価	
事務事業名 (関連下位目標番号)	事業の概要	主な関連予算事項等 (14年度予算)
化学物質による環境汚染の実態把握 (下位目標1)	・平成14年度は、115物質(媒体別延べ数)について調査を実施するとともに、平成13年度に実施した調査結果を調査物質毎に、解析することにより、これら化学物質の環境リスクの評価・管理に必要不可欠な環境中の汚染実態を把握。	化学物質環境安全性総点検調査等調査研究費 (255百万円)
内分泌かく乱化学物質の有害性評価等 (下位目標2)	新たに24(このうち文献調査:16)物質の有害性評価に着手。また、スクリーニング・試験法の開発においては、魚類、鳥類両生類のほか、無脊椎動物についても着手。得られた結果についてはOECDに情報提供する等国際的な情報共有化の取組に協力。	内分泌攪乱化学物質対策関連予算 (1,662百万円)
体系的な環境リスク評価の推進 (下位目標3)	PRTR対象物質等を対象として環境リスク評価を推進。	化学物質の環境リスク評価推進費 (526百万円)

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

(施策名) - 7 - (1)環境リスクの評価環境 リスクの評価 (下位目標1)	単位	現況値(時点)	目標値(目標年次)		
(指標名) 調査対象媒体別物質数	物質数	115 (平成14年度)	(平成15年度)		
指標の解説(指標の算定方法) 有害性の高い化学物質の環境残留状況の把握及び環境リスクの評価・管理に資するため に、調査を行った媒体別物質数					
「評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別)」 化学物質環境汚染実態調査結果(毎年2月 公開) 「化学物質と環境」(毎年6月公開)	関連する事務事業名				
目標値設定の根拠、考え方 -					
特記事項 (外部要因の影響など) 目標値の実績値 (表・グラフにより、過去5年間の目標値の推移を記載)					
指 標	H9	H10	H11	H12	H13
調査対象媒 体別物質数	169	183	182	174	153
(実績のみを記載した。)					

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

(施策名) - 7 - (1)環境リスクの評価環境 リスクの評価 (下位目標2)	単位	現況値(時点)	目標値(目標年次)		
(指標名) SPEED'98の評価対象物質のうち、有害性評価に着手した物質数	物質数	20 (平成14年度)	45以上 (平成16年度)		
指標の解説(指標の算定方法) SPEED'98に掲載されている内分泌攪乱作用が疑われている65物質から優先物質を選定し、有害性評価を進める予定の物質数					
「評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別)」、 SPEED'98 (平成10年5月:平成12年11月改訂公開)	関連する事務事業名 内分泌かく乱化学物質の有害性評価等				
目標値設定の根拠、考え方 SPEED'98にリストアップされる物質のうち農薬など、他の施策で実施されているものを除いたもの。					
特記事項 (外部要因の影響など)					
目標値の実績値 (表・グラフにより、過去5年間の目標値の推移を記載)					
	H9	H10	H11	H12	H13
SPEED'98の 評価対象物質のうち、有害性評価に着手した物質数	-	-	-	12	8

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

(施策名) - 7 - (1)環境リスクの評価環境 リスクの評価 (下位目標3)	単位	現況値(時点)	目標値(目標年次)
(指標名) 情報収集対象物質数	物質数	100 (平成14年度)	220 (平成16年度)
指標の解説(指標の算定方法) 環境リスク評価に向けて基礎情報の収集を行った物質数			

<p>「評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別)」 「化学物質の環境リスク評価」(環境省環境保健部環境リスク評価室)(公開)</p>	<p>関連する事務事業名 体系的な環境リスク評価の推進</p>																										
<p>目標値設定の根拠 P R T R対象物質を中心に化学物質の環境リスクに関連する基礎情報を年50物質程度ずつ体系的に整備する。</p>																											
<p>特記事項 (外部要因の影響など)</p>																											
<p>目標値の実績値</p>																											
<p>(表・グラフにより、過去5年間の目標値の推移を記載)</p>																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>H10</th> <th>H11</th> <th>H12</th> <th>H13</th> <th>H14</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報収集対象物質数 (累計数)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>50</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	指 標	H10	H11	H12	H13	H14	情報収集対象物質数 (累計数)	-	-	-	50	100	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	H10	-	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H11</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	H11	-	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	H12	-	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H13</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	H13	50	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H14</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	H14	100
指 標	H10	H11	H12	H13	H14																						
情報収集対象物質数 (累計数)	-	-	-	50	100																						
H10																											
-																											
H11																											
-																											
H12																											
-																											
H13																											
50																											
H14																											
100																											